

令和 8 年（2026 年）2 月 10 日

令和 7 年度金沢市議会 2 月定例月議会 市長施政方針

本日、ここに令和 7 年度金沢市議会 2 月定例月議会が開かれるにあたり、市政に対する所信の一端と提出議案の大要についてご説明いたします。

一．はじめに

それに先立ちまして、先週、市立小学校に勤務する教員が逮捕されました。市政に対する信用を失墜させたことを、市長として重く受け止めており、議員各位並びに市民の皆様にお詫び申し上げます。私を含め職員一同、改めて襟を正し、市民の負託に応えるよう、職務に懸命に励み、一日も早い市政の信頼回復に努めてまいります。

さて、一昨日、衆議院議員総選挙が執行されました。今回の選挙の結果も踏まえ、通常国会において、我が国の今後の進むべき方向性について議論が交わされることとなります。物価高騰や地域経済対策、人口減少社会への対応など、国・地方が直面する諸課題の解決・前進に向けて、全力で取り組まれることを期待する次第であり、自治体運営にも影響のある消費税の減税や社会保障制度改革を巡る国の動向に、市としても十分注視してまいります。

また、先月 21 日から、数度にわたる「顕著な大雪に関する気象情報」が発表され、寒波と降雪に見舞われる中、25 日には、本市において観測史上最大となる降雪量を記録し、市民生活にも大きな影響が出ました。

この間、多くの市民の皆様に懸命な除雪活動を行っていただきましたことに、心から感謝いたします。本市といたしましても、いち早く雪害対策本部を立ち上げ、市内 8 か所に排雪場を開設するとともに、民間事業者のご協力を得ながら、道路等の除排雪作業にあたってきたほか、降雪・積雪期間が 2 週間を超える長期に及んだことから、臨時的な措置として、地域除排雪活動費補助制度の限度額の適用を拡充するなど、市民生活の安全・安心の確保に懸命に取り組んでまいりました。その道路除排雪費につきまして、今補正予算に

3億円を追加計上していますが、今般の大雪で想定を上回る見込みとなったことから、後日、予算を追加提案したいと考えています。今後も降雪が想定されることから、引き続き、国・県等の関係機関や除雪事業者との連携を一層密にすることで、円滑な道路交通の確保等に万全を期してまいります。

ところで、今回の議会は、私にとりまして、今任期中最後の定例月議会となります。

私は、市長に就任して以降、市民の皆様とともに、20年先、30年先の将来を見据えたまちづくりを進めるため、「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」を都市像に掲げ、その具現化に向けた未来共創計画を策定し、着実な実践に努めてまいりました。

市政は各般にわたり、順調に進展しており、議員各位並びに市民の皆様のこれまでのご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。

とりわけ、将来にわたり、まちの魅力と活力をさらに高めていくためには、まちの発展基盤の整備と未来を担う次世代への投資、そして本市の魅力である文化の継承・発展が不可欠との思いから、その実践に全力を注いでまいりました。

はじめに、都心軸の再興です。その象徴ともなる日本銀行金沢支店跡地につきましては、日本銀行との協議が整ったことから、今回、跡地を取得するための補正予算をお諮りし、加えて、地下金庫室の活用を含め、金沢21世紀美術館の仮移転にも対応すべく、改修工事を前倒ししてまいります。さらに、来月にも、有識者や経済界、地元関係者等からなる先行利活用推進協議会を開催し、建物内の空間や外構の具体的な利活用方法などの議論を進めることとしており、金沢21世紀美術館が休館となる令和9年5月からの先行利活用に向けて、準備に万全を期してまいります。

その金沢21世紀美術館では、明年度から大規模修繕にかかる設備の調達などに取りかかるとともに、休館期間中におけるまちなかの新たな賑わいの創出に向けて、引き続き、検討会における議論を深め、事業やイベント等の実施計画を早期に取りまとめてまいります。

一方、都心軸における民間開発の動きでありますが、まず、金沢駅前の都ホテル跡地につきましては、県都金沢の玄関口にふさわしい開発に向けた提案がなされるよう、県とも

連携を図りながら、実務者レベルにおける近鉄不動産との具体的な協議を進めており、今後さらに加速させていきます。

また、その他都心軸沿線では、既に再開発に向けて都市計画決定を受けている片町四番組海側地区の実施設計などの取組を支援するとともに、山側地区では、地元まちづくり協議会等と再整備手法などを検討してまいりますほか、武藏ヶ辻地区では、金沢エムザを中心とした地元の協議会が、再開発事業の計画策定を進めており、引き続き、都市再生緊急整備地域における民間開発が進展するよう、国や本市独自の支援制度の活用を周知するなど、市として積極的に関わってまいります。

次に、未来を担う子どもたちについてです。かねてより整備を進めてきた森本いろは保育所を、本年4月に開所いたします。施設内には、新たな子育て拠点である「ぽかぽかの森」を併設し、親子が楽しく遊べるだけでなく、親同士が気軽にふれあい、情報交換できる場を整えるほか、専任職員を配置し、保育所や子育てに関する相談などにも対応してまいります。

加えて、保護者の時間的負担を軽減するため、かねて準備を進めてきた全ての市立保育所における主食の提供を、4月より開始するとともに、私立保育所なども含め、副食費の食材費高騰分を引き続き公費で負担するほか、就労要件を問わず時間単位で利用可能な「子ども誰でも通園制度」を本格実施いたします。

さらに、子どもアート工房みたににつきましては、子どもの情操教育の拠点として、5月1日に開設することとし、創造性豊かな子どもの成長に資するよう、多彩な取組を展開していきます。

また、結婚を希望する若者に出会いの機会を提供する大規模婚活イベントについて、石川中央都市圏の市町と連携し、春と秋に開催するとともに、引き続き、保育士等の奨学金返還支援や保育料の第2子無償化など、効果的な少子化対策を講じてまいりますほか、子育て支援医療助成費の対象年齢拡大については、更なる子育て世代の負担軽減策の一つとして、今後検討していきたいと考えています。

ところで、学校給食費についてでありますが、4月より、小学校給食費を無償化いたし

ます。その財源として、国及び県からの支援を活用しますが、国の基準は、現在の本市の食材費を下回っていることから、その差額を全額市費で負担することで、給食の質と栄養バランスを確保いたします。なお、中学校給食費については、引き続き、食材費の高騰分を全額市費で負担することで、現行の保護者負担額を据え置きます。

次に、文化の振興についてです。先人達が培ってきた歴史や伝統、文化芸術など、唯一無二の本市の個性に磨きをかけるとともに、こうした文化をより身近なものとし、次の世代につなげることが、私の使命と考えています。

市民の芸術活動の拠点である金沢市民芸術村についてですが、老朽化した既存施設の改修、並びに子どもたちをはじめ、あらゆる世代が文化芸術に親しみ、多彩な活動や交流ができる新たな拠点施設の整備に向け、それぞれの施設の基本設計に着手いたします。

また、泉鏡花記念館と旧菫子文化会館につきましては、先般策定した基本構想を踏まえ、木の文化都市・金沢を象徴し、泉鏡花を育んだまちへと誇う文化交流拠点施設として一体的に再整備するため、基本計画の策定に取りかかってまいります。

加えて、木の文化を市民や来街者に感じていただくため、金沢の玄関口である金沢駅通り線のアーケードに、特徴的な木の意匠を施したいと考えており、そのための実施設計に取り組んでまいります。

さらに、金沢の庭園文化につきましては、現在、国名勝である「西氏庭園」の取得に向けて、所有者との協議を進めているところであり、金沢の歴史的庭園が持つ魅力を国内外に発信するための拠点施設としての活用を見据え、保存活用計画を策定いたします。

他方、長引く物価高騰への対応についてですが、今般、県が、水道基本料金の無償化支援を2か月延長することとしたことから、市としても、先の議会でお認めいただいた期間を2か月延長し、半年間無償化することといたします。併せて、住民税非課税世帯及び子育て世帯に対する現金給付や商店街のプレミアム商品券事業の実施を急ぎ、家計の負担軽減に努めてまいります。

加えて、若年労働者の人材確保に向けた賃金の引上げや、生産性向上に資するA.I・D.Xの導入に取り組む中小企業の支援制度を創設するほか、一般会計の公共事業費規模につ

きましても、国の経済対策に積極的に呼応した最終補正予算を含め、前年度を大きく上回る310億円を確保した次第であり、早期の発注に努め、地域経済を下支えしてまいります。

さて、能登半島地震からの復旧・復興についてでありますが、液状化による大きな被害が生じた栗崎地区の迅速な復旧と、被災された方の相談支援体制を強化するため、現在、危機管理課にある被災地区復旧推進室を、現地のものづくり会館内に移転します。令和11年度中の復旧完了に向けて、栗崎小学校周辺の液状化対策工事を前倒すとともに、道路の復旧工事に着手するほか、土地の境界確定に向けた地籍再調査につきましても、明年度中の完了をめざし、スピード感を持って取り組んでまいります。さらに、被災した宅地などの復旧を支援するため、境界の再確定に妨げとなるブロック塀の移設等に対する支援制度を創設いたします。

また、局地的に滑動崩落被害があった神谷内町葵地内については、令和9年度中の完成をめざし、原因となった地下水を排除するための安全対策工事に着手します。

一方、能登の被災者に対しては、文化やスポーツを通じた元気を届ける施策や、能登の伝統文化の復興、魅力発信を通じた広域観光の推進に引き続き取り組むなど、県都金沢としての役割を果たすとともに、みなし仮設住宅入居者への見守りや市営住宅への継続入居など、被災者一人ひとりに寄り添った支援に努めてまいります。

二．令和8年度当初予算案の概要

令和8年度当初予算につきましては、来月、市長選挙を控えていることから、人件費や扶助費などの義務的経費や、既に設計費などが予算化されている継続事業のほか、能登半島地震や昨年の大雨災害からの復旧・復興経費が主体となる骨格予算として編成いたしました。そのような中にあっても、市政の停滞は許されないことから、編成にあたっては、当初予算と補正予算を一体的に編成するとともに、明年度より充実期を迎える未来共創計画の着実な実践に意を用いた次第であります。

この結果、予算の規模は、前年度に比べ、

一般会計で、1.4パーセント増の2,078億円と過去最大規模となり、

全会計では、1.4パーセント増の3,753億768万4千円となりました。

歳入では、過去最高額の市税を見込むとともに、交付税措置のある有利な地方債の借入に努めるほか、基金の有効活用などにより、地方債依存度や実質公債費比率は、引き続き低い水準にあり、健全財政を堅持しています。

以下、施策の大要につきまして、未来共創計画の柱に沿って順次ご説明いたします。

最初に、「世界に誇る伝統と創造の文化が息づくまち」です。

谷口吉郎・吉生氏の唯一の親子協働作品である玉川図書館ですが、本年12月の暫定開館をめざし、建築的価値の継承に向けた大規模改修を本格化してまいりますほか、吉郎氏設計の旧西町教育研修館を改修する金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）につきましては、令和9年夏頃の開館に向けて、改修工事を進めるとともに、寄贈された柳宗理氏のデザイン資料を生かした質の高い展示空間の創出に向けた準備を進めていきます。

また、金沢美術工芸大学では、本年11月に開学80周年を迎えることから、国内の芸術大学の学長による記念シンポジウムや、これまでの歩みを振り返る特別展を開催するなど、美と知の創造拠点としての魅力を広く発信してまいります。なお、旧キャンパスについては、敷地内のがけ地安全対策工事が夏頃に完了する予定であり、明年度中には、建物の解体工事を終えることとしております。

加えて、本多町歴史文化ゾーンに位置する旧職員会館に関しては、隣接する旧県立図書館とともに、解体工事に着手いたします。周辺の文化施設間の回遊性向上が図られるよう、跡地は、緑地として暫定利用する予定であり、引き続き、県との連携を密に取り組んでまいります。

一方、市指定保存建造物の旧森紙店については、その価値を生かしながら、金沢の多様な文化を発信する施設として、令和10年春の開館をめざし、また、国史跡の辰巳用水附土清水塩硝蔵跡につきましても、時を同じくして一般公開したいと考えており、それぞれ整備工事に着手いたしますほか、金沢湯涌江戸村では、現在整備を進めている管理棟の供用を本年11月に開始することとしており、併せて、デジタル技術を活用した展示機能を充実するなど、準備に万全を期してまいります。

他方、世界に誇る本市の食文化についてですが、昨年、加賀料理が国の登録無形文化財に登録されたことも踏まえ、10月の金沢食文化月間及び食の祭典「KANAZAWAおいしいフェスタ」の開催等を通じて、金沢の豊かな食文化を国内外に発信することで、本市のブランド価値を高め、まちの賑わい創出や観光の振興にもつなげていきたいと考えています。

なお、現在作成を進めている、金沢観光の行動規範となる「金沢観光たしなみ帖」については、今後、特設サイトの運用などを通じて、普及啓発に努めるとともに、旅行者と市民が観光スポットを巡りながら、協力して清掃活動を行うまち歩きツアーを新たに実施するなど、市民と観光客の相互理解を促進していきます。

さらに、東山地区のトイレ不足やごみ問題の解決に向けては、金沢大学と連携し、公衆トイレの混雑状況が確認できるアプリを本格運用するとともに、センサーを内蔵したスマートごみ箱を新たに設置するなど、観光地の美化を推進する実証実験に取り組んでまいります。

一方で、昨年11月に締結した、白馬村との連携協定に基づき、豪州からのスキー客をターゲットに観光プロモーションを実施し、冬期の観光需要の底上げを図っていきます。

次に、スポーツ文化の推進ですが、全ての市民が健康で活力に満ち、豊かさを実感できる地域社会の実現に向けて、新たなスポーツ文化推進計画の策定に取り組むほか、戸室スポーツ広場における子ども専用野球場の整備に向けた実施設計に取りかかるとともに、専光寺ソフトボール場の再整備や、城北市民運動公園の旧市民サッカー場跡地における多目的広場の整備を進めるなど、スポーツ施設の充実に努めてまいります。

また、12回目を迎える金沢マラソンについては、定員1万5千人規模を継続した上で、一斉スタート方式に見直すほか、誰もが参加できるファンランの定員を拡充するとともに、新たに能登地域でランニング教室を開催するなど、能登への応援と合わせ、さらに愛される大会をめざしていきます。

一方、昨年末の強風により、バックスタンドの屋根が損壊した金沢スタジアムにつきましては、二次被害の防止に向けた応急復旧工事を進めているところであり、今後、十分な

安全対策を講じた上で、来月 1 日のツエーゲン金沢のホームゲーム初戦から、バックスタンドを除き、利用を再開いたします。なお、本格復旧に併せ、再発防止に向けた屋根の補強工事を行うこととしており、一日も早い復旧をめざし、鋭意取り組んでまいります。

第 2 に、「多様な人々が共生し、心豊かに暮らせるまち」です。

先般策定した新たな協働推進計画の着実な実践に努めるほか、地域活動発信アプリ「結ネット」について、地域のデジタル人材をアドバイザーとして各地域に派遣するとともに、地域の担当者による交流会などを開催することで、普及及び活用を促してまいります。

次に、共生社会の実現をめざす取組に関してですが、誰もがあらゆる分野で輝き活躍できる社会をめざし、男女共同参画推進行動計画の改定に向けた意識調査を実施するほか、高齢者が心豊かに暮らし続けられる社会の実現に向けて、新たな長寿安心プランを策定するとともに、併せて、次期の介護保険事業計画に基づく令和 9 年度からの介護保険料の算定作業も進めています。

また、障害のある方への施策では、次期ノーマライゼーションプラン金沢の策定に取り組むとともに、大学などの手話サークルと連携した手話体験イベントや、VR 技術を活用した障害の特性を体験する研修会を開催するほか、森本いろは保育所や私立保育所などにおいて、医療的ケア児の受入体制を整えてまいります。

さらに、本市の文化芸術資源を医療や福祉の分野に生かし、心身の健康に良い影響を与える文化的処方の活用に関してですが、福祉施設へ芸術家等を派遣したモデル事業において、入所者が生き生きとした表情をするなどの効果が見られたことから、活用検討会からの提言を踏まえ、明年度は新たに、コンサートや展覧会へ施設入所者に出向いてもらう招待型のモデル事業を実施し、検討を深めてまいります。

一方、老朽化が進む金沢健康プラザ大手町についてでありますが、未病対策や災害対応の視点を取り入れた再整備に向けて、実施設計に取りかかるとともに、現施設の解体工事に着手いたします。なお、工事期間中は、旧味噌蔵町小学校に仮移転することとしており、引き続き、関係団体と連携し、市民の健康増進に努めてまいります。

加えて、幅広い世代に健康への関心を高める機会を創出するため、まちなかにおいて、

休養と睡眠をテーマとしたイベントを9月に開催するほか、熱中症対策としての避暑休憩スペース「クーリングシェルター」については、企業のご協力を得ながら、さらに拡充していく予定であり、開設場所が分かるマップを作成し、広く周知してまいります。

さらに、令和10年度からの本格実施を予定する5歳児を対象とした健康診査については、有識者等による検討会を設置し、令和9年度からのモデル実施や健診方法などの検討を進めています。

また、市立病院の移転整備についてですが、先般、移転候補地である平和町公園を所有する北陸財務局との協議がまとまりましたので、用地取得費を補正予算にお諮りとともに、移転整備に向けた基本設計につきましても、明年度中の取りまとめに向け、鋭意取り組んでまいります。

他方、国民健康保険料に関しては、市民生活への影響に配慮し、基金を活用することで、県基準による賦課限度額の改定のみに留め、現行の保険料率を据え置くとともに、低所得者層に対する軽減措置を拡大いたします。

また、昨年12月から、健康保険証がいわゆるマイナ保険証を基本とする仕組みに移行したことから、今後、マイナンバーカードの更新手続きなどが増加することを見込み、窓口体制を一層強化するとともに、デジタルの活用などにより、市民の利便性向上と業務の効率化の両立を図るべく、窓口改善に向けた実施計画の策定に取り組んでまいります。

次に、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組ですが、国が新たに設定した温室効果ガス排出量の中期削減目標を踏まえ、地球温暖化対策実行計画を改定するほか、城北及び臨海水質管理センターにおいて、民間事業者が太陽光発電設備を設置し、電力を施設に供給するPPAモデルの導入に向け、公募型プロポーザル方式により、事業者を選定してまいります。

また、東部環境エネルギーセンターの基幹的改良工事を本格化するとともに、西部環境エネルギーセンターにおいては、燃焼設備などの改良に向けた実施設計に着手するほか、老朽化が進む西部衛生センターでは、再整備に向けた検討を進めています。

第3は、「共に学び、未来を創る人を育むまち」です。

教育を取り巻く状況の変化に対応し、学校教育と生涯学習の一体的な振興を図る新たな教育振興基本計画を、今般策定したところであり、教育行政を総合的に推進するため、この計画を本市の教育行政大綱に位置付けることといたしました。新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、心豊かな未来を創る金沢の教育をめざしてまいります。

教育施設の整備では、日本郵便金沢有松社宅跡地への三馬小学校の移転新築に向けて、敷地の造成工事並びに校舎・体育館の実施設計に着手するほか、四十万小学校及び西小学校の長寿命化に向けた大規模改良工事を推進してまいります。

さらに、学びの多様化学校、いわゆる不登校特例校につきましては、現在、旧馬場小学校での整備に向けて、実施設計を進めているところでありますが、特色ある教育課程の編成や人材の確保など、具体的な検討を進めるため、教育委員会に「学びの多様化学校開設準備室」を設置し、令和10年度中の開校に向けた準備を着実に進めていきます。

なお、近年の猛暑に伴う熱中症リスクの高まりから、水泳の授業の一部が中止される状況にあります。施設の老朽化への対応や、水泳指導にかかる教員の負担軽減などの観点から、有識者や水泳競技関係者などを交えた検討委員会を立ち上げ、今後の水泳授業のあり方について検討を進めてまいります。

一方、中学校部活動の地域展開に関してですが、明年度から始まる国の改革実行期間に合わせ、運動部と文化部を一体的に推進するため、文化スポーツ局に「部活動地域展開推進室」を新設し、国の大谷委員長の下で、本市の地域展開を着実に進めるための基本方針を策定いたします。また、スポーツや文化の関係団体等からなる委員会を立ち上げ、地域展開を統括する運営団体の構築に向けた検討を開始するほか、学校と指導者の橋渡し役となるコーディネーターを増員するとともに、モデル事業を支援するサポーターを新たに配置し、その拡充を図ってまいります。

他方、昨年7月に長土堀青少年交流センター内に、中高生の自由な居場所として開設した、かなざわユースセンターについては、利用者が順調に増加しており、更なる利用促進に向けたイベントを開催するほか、新たに出張型のユースセンターとして、図書館や中学校など地域に身近な施設で実施することで、様々な地域で中高生が気軽に集い、安心して

過ごせる環境づくりを進めてまいります。

次に、生涯学習の振興に関してです。施設の老朽化が進む額公民館については、額市民センターとの複合施設として、令和10年度の供用開始をめざし、建設工事に着手いたしますほか、キゴ山ふれあい研修センターでは、宇宙教育の拠点として、より魅力的な展示内容となるよう、天文学習棟の展示リニューアルに向けた基本・実施設計に着手するとともに、「月の石」の展示1周年を記念し、宇宙飛行士等による講演会を開催するなど、天体や宇宙の魅力を広く発信してまいります。

第4は、「創造・変革により成長するまち」です。

昨年制定した中小企業・小規模企業振興基本条例の具現化に向けた振興計画については、先般、人材育成や労働環境の整備などの施策の方向性を盛り込んだ骨子案がまとまったことから、来月、パブリックコメントを行うこととしており、広く企業や市民の皆様からのご意見をいただきながら、計画の取りまとめを急いでまいりますほか、中小企業の人材確保を図るため、採用活動や若手社員の育成に関する企業向けのセミナーを開催いたします。

一方、新たな工業団地の整備に向けては、今年度実施した可能性調査において、複数の候補地区を抽出したことから、先月、有識者等で構成する企業立地等促進委員会を開催し、整備する最適な地区や分譲対象業種について諮詢いたしました。明年度には、事業収支や周辺環境などを調べる適地調査を実施することとしており、これを踏まえた促進委員会での議論、並びに改定作業を進めている都市計画マスタープランとの整合を図りながら、年内を目途に、整備地区を決定したいと考えています。

また、本市の個性である工芸の継承と更なる発展に向けて、金沢KOGEIアクションプランの中間見直しに取り組むほか、金沢・クラフト広坂の開館20周年を記念し、希少伝統工芸をテーマとした特別展を開催するとともに、「KOGEIフェスタ！」では、今年度好評を博したデジタルアートミュージアムの開催期間を拡大するなど、本市工芸の魅力を国内外に広く発信してまいります。

次に、農林水産業の振興では、農林業の持続的な発展と農山村の活性化の指針となる金沢の農業と森づくりプランをはじめ、金沢産農産物ブランド戦略や、新たな海幸金沢魅力

向上計画を、今般策定いたしました。今後、スマート農林業の普及促進や加賀野菜・金沢の海の幸の販路拡大など、それぞれの計画に基づく取組を推進することで、農林水産業の経営基盤の強化やブランド力の向上につなげていきます。

また、旧東浅川小学校を活用した拠点施設ですが、その名称を「金沢もりづくりベース東浅川」とし、今般、設置条例をお諮りしています。乳幼児が木の温もりを感じながら、安心して遊ぶことができる木育ルームを設置するほか、関係団体との協働により、広く市民が森林との関係を育む機会を創出するなど、多様な森づくり活動が行われる拠点となるよう、本年10月の開館に向けて、準備に拍車をかけてまいります。

加えて、施設の開館を記念し、本市に生まれた子どもたちへの誕生祝い品として、金沢産材を活用し、梅をモチーフに加賀五彩を取り入れた木の玩具「にじいろうめ」を贈呈したいと考えております。4月より、いしかわ中央子育てアプリにて申込みの受付を開始いたします。

他方、中央卸売市場の再整備に関してですが、青果棟の移転先となる湊3丁目地内の県有地の取得について、先般、石川県との間で合意書を締結いたしました。加えて、今月中にも、基本設計がまとまりますことから、青果棟の移転整備に向けた実施設計に着手してまいります。引き続き、市場事業者との協議を丁寧に進めながら、再整備を着実に進めてまいります。

最後に、「活力と個性があふれ、安全で持続可能なまち」です。

都心軸の再興や、災害に強く住み良い住環境の形成など、今後も持続的にまちを成長・発展させていくための指針となる都市計画マスタープランについて、明年度末の改定をめざし、地域別構想などの取りまとめを行ってまいります。

また、市民の生活基盤となる道路整備に関しては、交通の円滑化や災害に強い道路網の構築に向けて、道路基本計画の改定に着手するほか、都市計画道路北安江出雲線の本年11月の全線開通をめざすとともに、泉野々市線についても、着実に整備を進めてまいります。加えて、まちなかの回遊性向上と良好な景観形成をめざし、旧北国街道のふくろう通りや鞍月用水沿い・旧古寺町通りなどの無電柱化整備を推進してまいります。

さらに、夢ある公園再生・活用計画に基づき、笠舞第1児童公園を、自然とふれあい、遊びや運動などが楽しめる公園として再整備するほか、市営住宅の整備では、第6期の緑住宅の建設工事に着手いたします。

一方、道路や河川、公園の公共インフラ施設については、老朽化が進む中で、民間企業の創意工夫やノウハウを活用した効率的な管理体制を構築する必要があることから、包括的民間委託の導入に向け、一部の中山間地域でモデル事業を実施します。

また、交通ネットワークの確保ですが、持続可能な交通ネットワークの構築に向けて、次期金沢交通戦略の策定に着手するとともに、様々な移動手段の乗継拠点となるモビリティハブの機能を強化するため、補正予算に前倒しして、片町と平和町のバス停にデジタルサイネージなどを整備してまいります。さらに、令和9年度の連節バスの実証運行開始をめざし、金沢駅から金沢港までの間において走行環境の整備を進めるほか、「まちのり」については、利用拡大に向けて、南部方面での社会実験を実施いたします。

他方、旧新豊町小学校の跡地については、先月策定した基本構想において、大学等による教育・実践機能や幅広い世代の交流機能を持つ、学びと共に創出する地域力創造拠点として整備することとしており、民間活力の導入可能性調査と併せ、基本計画を取りまとめてまいります。

また、移住・定住の促進に向けて、移住相談にきめ細やかに対応していくため、LINEを活用したオンライン相談窓口を開設し、金沢での暮らしの魅力を広く発信するほか、まちなかにおけるカラス対策を強化するため、街路樹へのテグスの設置を拡充するとともに、排泄物の分析による生態調査を実施し、今後の対策に生かしてまいります。

次に、災害に強いまちづくりについてです。避難所の充実に向けて、先月、スギホールディングス株式会社と、災害時の食料や生活必需品の調達などを円滑に行うための協定を、また、学校法人国際ビジネス学院とは、ペットと同伴できる避難所の確保に向けた協定をそれぞれ締結いたしました。引き続き、官民連携による災害対応力の強化を図るとともに、本年5月に予定する第2次の地域防災計画の見直しに向けて、鋭意作業を進めています。

また、災害時の避難所となる小中学校などの体育館への空調設備の導入につきましては、PFI方式での整備が最も早く、効果的であることが確認できましたので、令和9年度からの3か年での整備をめざし、事業者選定などの必要な手続きを進めることとし、併せて、発電機の設置やプロパンガスの活用など、大規模災害時を想定した熱源の確保にも努めてまいります。

さらに、旧材木町小学校の跡地では、防災機能を有する広場の整備に向けた実施設計に取り組むほか、災害時におけるトイレ環境の充実に向けて、国の補正予算を活用し、拠点避難所におけるマンホールトイレの整備を前倒しするとともに、給水タンクやソーラーパネルを備えたトイレカーを本年8月に導入することとしており、平時は防災イベント等においても活用することで、防災意識の醸成にもつなげていきます。併せて、防災活動に意欲のある学生によるネットワーク会議を立ち上げ、学生の防災知識の向上と共助意識の醸成を図ることで、地域防災力の一層の強化に努めてまいります。

なお、市公式アプリ・ホームページへのアクセスを一元化した「かなざわデジタル市民パスポート「かなパス」の運用を、先月より開始したところですが、避難所の円滑な入退所管理にも活用できる機能を備えており、本年秋の市民防災訓練から本格的に活用するほか、今後、日常生活でも利用できるよう機能を拡充していきたいと考えています。

加えて、防災などの市民生活に密着した施策を紹介する動画を作成し、SNS等で定期的に配信するなど、市政に関する情報を積極的に発信してまいります。

また、ライフラインである上下水道に関しては、重要な管路や施設の耐震化を推進するとともに、西部及び臨海水質管理センターの管理と更新を一体的に民間委託するウォーターピンパの導入に向けた準備を進めるほか、上水道未普及地域の解消に向けて、二俣地区の整備工事に着手いたします。

さらに、石川中央都市圏域における消防指令センターの令和9年度末の共同運用開始に向けて、消防指令システムの整備を本格化するほか、傷病者の情報を迅速かつ正確に把握するため、マイナンバーカードを活用した救急活動を本格実施するなど、消防・救急体制を強化してまいります。

他方、近年、激甚化・頻発化する大雨災害に備えるため、河北潟周辺地域において、営農者との協働により、雨水貯留効果の高い田んぼダムの取組を本格実施するとともに、老朽化した排水機場の更新や長寿命化に向けた検討を進めていきます。

加えて、昨年の大雨で浸水被害のあった伏見川流域などにおいて、ポンプ設備等の排水機能を強化するとともに、河川監視カメラを増設し、大雨時の初動体制を強化するほか、地下道が冠水した際の車両の進入防止ゲートを計画的に設置してまいります。

さらに、金沢港周辺の浸水リスクを大幅に低減させるため、本市では最大規模となる近岡町地内の雨水ポンプ場の建設に向けた実施設計に着手するとともに、松寺町地内で雨水地下貯留施設の整備を進めるなど、総合治水対策を推進していきます。

以上が、令和8年度の当初予算案の大要です。このほか、条例案では、先に述べた金沢もりづくりベース東浅川条例の制定や、分譲区画の販売完了に伴い住宅団地建設事業費特別会計を廃止する特別会計条例の一部改正など21件、その他の議案として指定管理者の指定など9件を今回お諮りしております。

三．令和7年度最終補正予算案の概要

次に、令和7年度の最終補正予算案ですが、国の経済対策に呼応した公共事業の前倒し経費のほか、各種事業費の精算が主な内容で、全会計の補正額は、166億1,355万1千円となりました。

都市整備・土木部門では、先に述べた金沢スタジアムの復旧工事のほか、外環状道路海側幹線4期区間などの道路築造工事や、スマート交差点整備モデル工事、木曳川の改修工事を前倒ししております。

経済・農林水産部門では、先に述べた中小企業の賃金引上げやA.I・D.Xの導入に対する支援に加え、大規模農家の農業用機械の導入などを支援するとともに、クマ被害を防止するため、捕獲檻の増設を前倒ししています。

また、福祉健康・こども未来部門では、水道基本料金無償化の期間延長に伴う一般会計負担をはじめ、救護施設や障害者福祉施設などの整備に対する助成費や、私立保育所等の運営費の追加のほか、生活扶助基準改定に関する先の最高裁判所の判決を踏まえた生活保

護費の追加給付費を計上しています。

教育部門では、小中学校の特別教室等への空調設備の整備を、また、危機管理部門では、粟崎地区の液状化対策工事を前倒しいたします。

加えて、都市政策・総務部門では、日本銀行金沢支店跡地の先行取得費に加え、外構整備工事の前倒しにかかる経費を計上するとともに、安定的な財政基盤を構築するため、財政調整基金を積み増ししているほか、企業局部門では、下水道管路の耐震化工事などを前倒ししています。

予算以外の議案では、大浦千木町線千田高架橋新設工事の請負契約の一部変更など3件をお諮りしたほか、過日専決処分した市議会議員補欠選挙及び衆議院議員総選挙にかかる一般会計補正予算など3件を報告しております。

四．終わりに

さて、明年度から、未来共創計画における充実期がスタートし、これまでに築いた礎を、新たな高みへ飛躍させるための挑戦の年となります。

先にも述べましたが、今回の議会は、私にとりまして、今任期中最後の定例月議会となります。引き続き、市民の皆様の負託をいただけるのであれば、未来共創計画の着実な実践に、私をはじめ、職員一丸となって、全身全霊を傾けていく所存であります。

各位並びに市民の皆様のご鞭撻とご支援を切望いたしますとともに、提出議案に対して、適切なるご決議を賜りますようお願いをし、提案理由の説明といたします。